

出産、育児に関する制度について

【休業】

【給付】

【社会保険特例】

【労働時間・休憩・休暇】

	産前6週間	出産日	産後6週間	産後8週間	1歳	1歳2か月	1歳6か月	3歳	小学校就学
	産前休業 (請求→就業禁止)	産後休業 (就業禁止) <small>(請求+医師の許可→就業可)</small>		育児休業 (申出 → 休業)	パパママ育休プラス	保育所入所不可等の場合 延長可			
	多胎の場合=14週間 出産予定日～実際の出産日=産前	出産予定日以外に出生した場合 ●「産前産後休業取得者変更(終了)届」		●「育児休業取得者申出書」					
	出産手当金<健保> <small>標準報酬日額の2/3 (12か月の標準報酬月額平均 × 1/30)</small>			育児休業給付金<雇保> <small>休業開始前6か月賃金の平均の ～6か月:67%、6か月:～50%</small>		延長可			
	出産育児一時金<健保> 42万円 <small>直接払でない場合</small> ●「出産育児一時金支給申請書」 <small>本人印、医師の証明、事業主印不要、 直接払を利用していないことが分かる証明</small> <small>給付額に満たない場合</small> ●「出産育児一時金内払金支払依頼書」 <small>本人印、事業主印不要、出産費用の領収書の写</small>			●「出産手当金支給申請書」 <small>本人印、医師の証明、賃金台帳、出勤簿</small> ●「休業開始時賃金月額証明書」 <small>「(初回)育児休業給付金支給申請書」 本人印、母子手帳の写、通帳の写、 育児休業申出書の写、賃金台帳、出勤簿</small>		年金額計算の特例 <small>時短勤務にて標準報酬月額が下がった場合 保険料→下がった等級、年金額→元の等級</small> ●「養育期間標準報酬特例申出書」 <small>戸籍謄本、住民票(育休終了月に同居が確認できるもの)、本人印</small>			
	社会保険料の免除					育児休業終了時改定 <small>標準報酬月額が1等級以上 下がった場合</small> <small>給与が3か月分支払われてから</small> ●「育児休業等終了時報酬月額変更届」 <small>賃金台帳、出勤簿</small>			
						短時間勤務 <small>1日6時間の短時間勤務を選択できる</small>			
				育児時間 <small>産後1年まで</small> 請求→ 1日2回、各30分の育児のための休憩 <small>(有給、無給かは会社の規程による)</small>		子の看護休暇 <small>年5日まで取得可(有給、無給かは会社の規程による) (小学校就学までの子が2人以上の場合は 年10日)</small>			
妊娠中				時間外、休日、深夜労働の免除 <small>産後1年まで</small> 請求 → 免除		所定外労働の免除 <small>請求→免除</small>		法定時間外労働の制限 <small>請求→ 1か月24時間、1年150時間まで</small>	
						深夜労働の免除 <small>請求→免除</small>			